２－３　２年生での「総合的な探究の時間」の取組　（地域・大学等との連携授業のみ抜粋）

①観光探究　（連携機関：あま市観光協会）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	５月 22 日（水）	**あま市の観光について知ろう** （情報の収集）	あま市観光協会・七宝焼アートヴィレッジを訪問し、職員から観光と伝統工芸品についての講話を聞く。（施設見学も兼ねる）
2	6月6日（木）	**１０周年事業の企画を考えよう** （課題の設定・整理・分析）	あま市観光協会の10周年事業について知り、盛り上げるための企画を考える。
3	6月 13 日（木）	**１０周年事業の企画をまとめよう** （まとめ・表現）	自分たちの提案内容が観光協会の主旨に沿っているかを再検討し、発表の準備をする。 ※発表用スライド等作成
4	6月 27 日（木）	**企画案を発表しよう** （まとめ・表現）	グループごとに企画案を発表する。 ※クラス案の選出
5	7月4日（木）	**企画書をつくろう**	選出されたクラス企画を実現するための企画書・予算案を作成する。 ※企画書作成
6	7月 11 日（木）	**計画を立てよう**	選出されたクラス企画を実現するための計画を立てる。 ※計画書作成
7	9月 12 日（木）	**制作しよう①**	計画書に基づいて制作する
8	9月 19 日（木）	**制作しよう②**	計画書に基づいて制作する
9	9月 26 日（木）	**制作しよう③**	計画書に基づいて制作する 【完成〆切日】
10	10 月5日（土）	**あま市観光協会 10 周年記念事業**	

【目的】

あま市観光協会並びにあま市七宝焼アートヴィレッジを訪問し、施設職員による講話と七宝焼の作品の実物に触れることで、地域の観光及び伝統工芸品についての知見を深め、地域の魅力とともに地域興隆における課題を発見する力を養うことを目的とする。また、あま市観光協会訪問に引き続いて実施される「総合的な探究の時間」での「観光探究」においては、 観光協会の10周年記念事業を地域住民と共同で実施することで、対話力とともに、地域の観光の課題を自ら解決する実践力を育てることを目的とする。

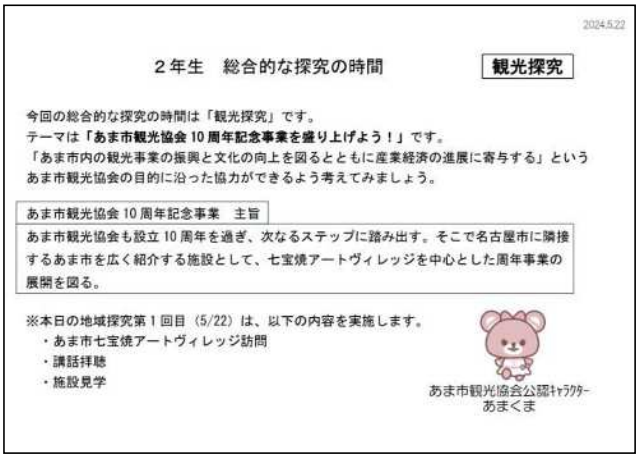
【内容】

第１時間目（あま市観光協会訪問）

七宝焼アートヴィレッジ内にある、あま市観光協会を訪問し、観光についての講話を聞く。また、七宝焼アートヴィレッジ職員による七宝焼についての講義を受け、 館内にある実物に触れることで、魅力を発見し、自身が使用する SNS または美和高校ホームページにてその魅力を発信する。なお、情報発信については、職員の許可が出ていない場所や、本人の許諾を得ていない周囲の人が写り込まないよう配慮するなど、情報モラル教育も兼ねて指導する。

また、訪問後に実施する「観光探究」で、自分たちが活動する場についての情報収集を行うことも、観光協会訪問の課題の1つとする。

【観光協会訪問用ワークシートの一部】



2024.5.22

２年生　総合的な探究の時間　**観光探究**

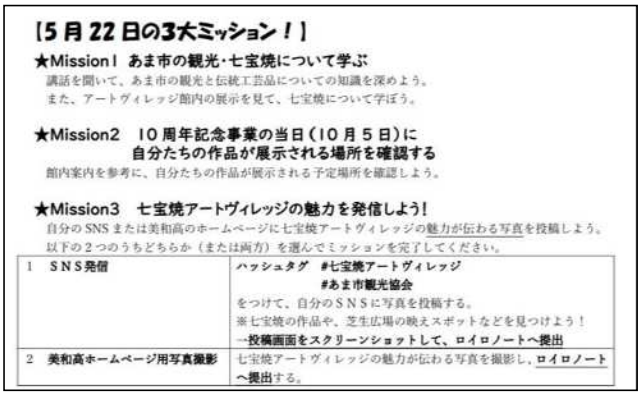
今回の総合的な探究の時間は「観光探究」です。
テーマは「**あま市観光協会 10 周年記念事業を盛り上げよう！**」です。
「あま市内の観光事業の振興と文化の向上を図るとともに産業経済の進展に寄与する」というあま市観光協会の目的に沿った協力ができるよう考えてみましょう。

あま市観光協会 10 周年記念事業　主旨

あま市観光協会も設立 10 周年を過ぎ、次なるステップに踏み出す。そこで名古屋市に隣接するあま市を広く紹介する施設として、七宝焼アートヴィレッジを中心とした周年事業の展開を図る。

※本日の地域探究第１回目（5/22）は、以下の内容を実施します。
・あま市七宝焼アートヴィレッジ訪問
・講話拝聴
・施設見学

あま市観光協会公認ｷｬﾗｸﾀｰ
あまくま



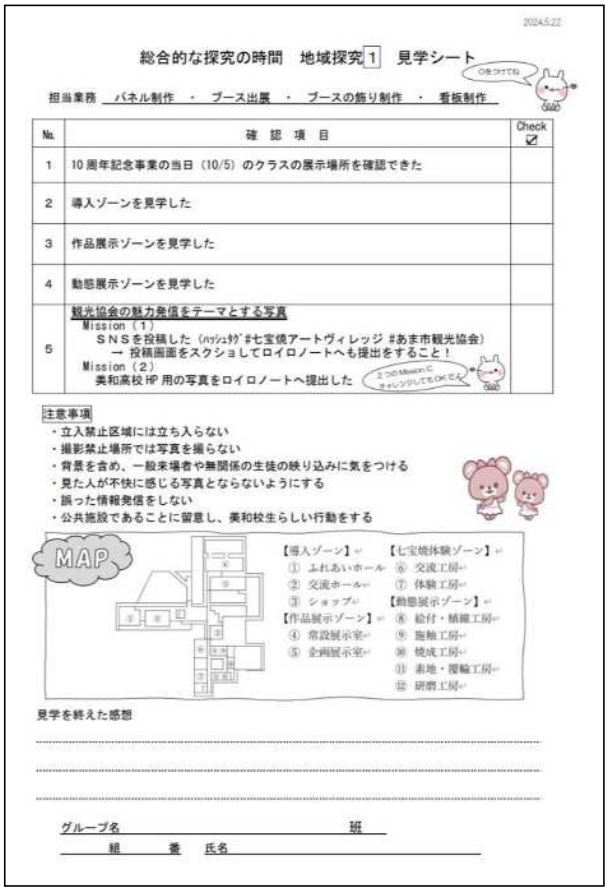
【5 月 22 日の3大ミッション！】

★Mission1　あま市の観光･七宝焼について学ぶ
講話を聞いて、あま市の観光と伝統工芸品についての知識を深めよう。
また、アートヴィレッジ館内の展示を見て、七宝焼について学ぼう。

★Mission2　10 周年記念事業の当日（10 月 5 日）に自分たちの作品が展示される場所を確認する
館内案内を参考に、自分たちの作品が展示される予定場所を確認しよう。

★Mission3　七宝焼アートヴィレッジの魅力を発信しよう!
自分の SNS または美和高のホームページに七宝焼アートヴィレッジの魅力が伝わる写真を投稿しよう。
以下の２つのうちどちらか（または両方）を選んでミッションを完了してください。

1	ＳＮＳ発信	ハッシュタグ　#七宝焼アートヴィレッジ #あま市観光協会 をつけて、自分のＳＮＳに写真を投稿する。 ※七宝焼の作品や、芝生広場の映えスポットなどを見つけよう！ →**投稿画面をスクリーンショットして、ロイロノートへ提出**
2	美和高ホームページ用写真撮影	七宝焼アートヴィレッジの魅力が伝わる写真を撮影し、**ロイロノートへ提出**する。



2024.5.22

総合的な探究の時間　地域探究 1　見学シート

担当業務　パネル制作　・　ブース出展　・　ブースの飾り制作　・　看板制作

No.	確認項目	Check ☑
1	10 周年記念事業の当日（10/5）のクラスの展示場所を確認できた	
2	導入ゾーンを見学した	
3	作品展示ゾーンを見学した	
4	動態展示ゾーンを見学した	
5	観光協会の魅力発信をテーマとする写真 Mission（1） ＳＮＳを投稿した（ﾊｯｼｭﾀｸﾞ #七宝焼アートヴィレッジ #あま市観光協会） → 投稿画面をスクショしてロイロノートへも提出をすること！ Mission（2） 美和高校 HP 用の写真をロイロノートへ提出した	

注意事項
・立入禁止区域には立ち入らない
・撮影禁止場所では写真を撮らない
・背景を含め、一般来場者や無関係の生徒の映り込みに気をつける
・見た人が不快に感じる写真とならないようにする
・誤った情報発信をしない
・公共施設であることに留意し、美和校生らしい行動をする

MAP

【導入ゾーン】
① ふれあいホール
② 交流ホール
③ ショップ
【作品展示ゾーン】
④ 常設展示室
⑤ 企画展示室
【七宝焼体験ゾーン】
⑥ 交流工房
⑦ 体験工房
【動態展示ゾーン】
⑧ 絵付・植線工房
⑨ 施釉工房
⑩ 焼成工房
⑪ 素地・覆輪工房
⑫ 研磨工房

見学を終えた感想

グループ名　　班
組　番　氏名

【観光協会訪問　当日の様子①】

【観光協会訪問　当日の様子②】

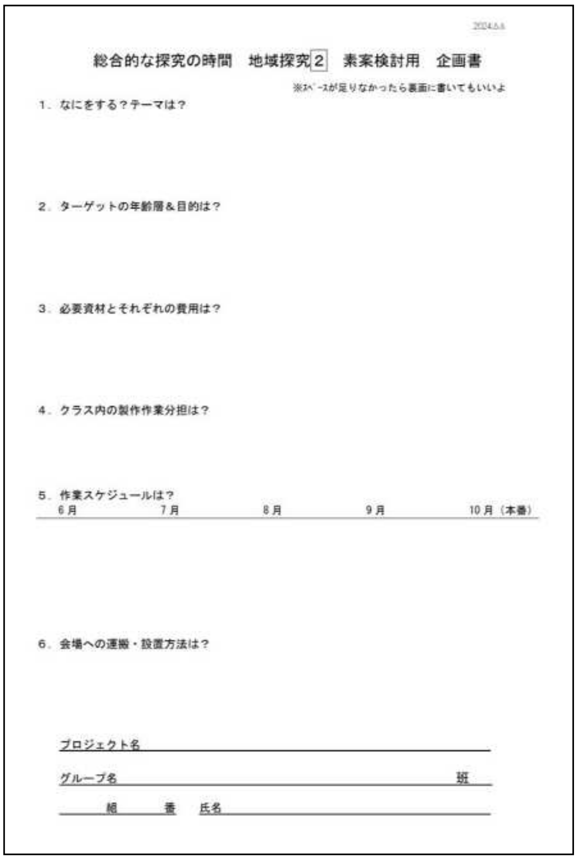
【生徒が SNS 上に発信した七宝焼アートヴィレッジの画像　※一部抜粋】

第２時間目～（観光探究）

あま市観光協会からの「10 周年記念事業をともに盛り上げてほしい」との依頼を受け、観光協会訪問後は、「10 周年記念事業（スカイランタンフェス）を盛り上げる」という課題を各クラスで検討する探究活動を実施した。クラスをグループに分け、グループごとに盛り上げる案を発表し、最優秀グループの案をクラス全員で準備・制作、10 月 5 日に七宝焼アートヴィレッジにて披露した。また、地域の企業から資材提供のご提案があり、企業との打ち合わせも生徒が自ら行った。

【授業及び打ち合わせの様子】

【使用したワークシートの一部】



総合的な探究の時間　地域探究2　素案検討用　企画書

※スペースが足りなかったら裏面に書いてもいいよ

1．なにをする？テーマは？

2．ターゲットの年齢層＆目的は？

3．必要資材とそれぞれの費用は？

4．クラス内の製作作業分担は？

5．作業スケジュールは？

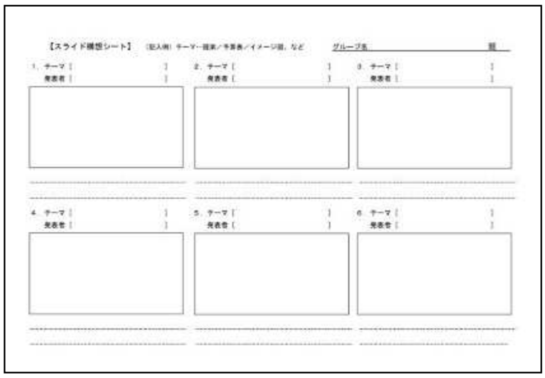
6月　7月　8月　9月　10月（本番）

6．会場への運搬・設置方法は？

プロジェクト名

グループ名　班

組　番　氏名



あま市観光協会より預かった事業費をクラスに配分し、各自の提案に予算計画をつけることを条件とした。制作期間や七宝焼アートヴィレッジ内の出店可能スペースにも限りがあるため、予算・期間・空間も考慮に入れての提案となり、様々な制限の中で実現可能な案を考えることの難しさを実感したクラスもあったようである。

なお、各クラスの制作物は以下の通りとなった。

【各クラス制作物】

２年１組　スカイランタンフェス会場飾り付け（バルーンゲート・看板）
２年２組　スカイランタンフェス会場飾り付け（壁面アート）
２年３組　ブース出店（わなげ・射的）
２年４組　スカイランタンフェス会場飾り付け（特大パネル・看板）
２年５組　ブース出店（コーヒーカップ・もぐらたたき）

上記内容に決定後、7 月後半から 10 周年記念事業前日（10 月 4 日）の七宝焼アートヴィレッジへの作品の搬入までの期間を制作期間とし、夏季休業等も使用して各クラスで制作を行った。

【スカイランタンフェス　事前準備の様子】

【スカイランタンフェス　当日の様子①】開場前

事前準備は２年生全員で実施。スカイランタンフェス当日は土曜日であったため、希望生徒のみの参加としたが、ブース出店クラスや部活動生徒を中心に、80名ほどの生徒が参加した。主体的に動く生徒が多く、呼び込みやブースの進行が非常にスムーズであり、来場者からお褒めの言葉をいただいた。

【スカイランタンフェス　当日の様子②】開場後

【成果と課題】

観光協会訪問やスカイランタンフェス当日は、多くの来場者に恵まれ、楽しんでいただけている様子が見られた。主催者側の地域住民からも、労いや感謝の声掛けを数多くいただいた。学校とは関係のない一般の来場者へ応対することに、当初は緊張や不安もあった生徒たちも、事後には自信と達成感を感じている様子が見られた。準備段階で失敗もあり、試行錯誤を繰り返す中で、クラスの絆が深まったと感想を述べる生徒もいた。

今回は初めて学年単位で動く地域との共同イベントであり、連携する機関が多く、連携機関・教員間で一部連絡が不徹底になる場面もあった。反省点をまとめ、次年度に活かしていきたい。

②共同ゼミ　（連携機関：星城大学・名古屋文理大学）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	12 月 12 日（水）	**大学のゼミを体験しよう**	①星城大学　経営学部 ②名古屋文理大学　フードビジネス学科 のゼミを体験する。

【目的】

地域社会に関係する大学での学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

【内容】

1　星城大学　経営学部　観光・まちづくり　教授　谷口　庄一　先生

テーマ：「あま市の魅力を　動画を通じて発信しよう」

①　講義

（1）映像研究の背景

作品から観光客増加へ　聖地巡礼　太田川駅と五等分の花嫁　東海市の映画撮影

ミラーライアーフィルムズ　学生の取り組み

②　グループワーク

（1）あま市のシティープロモーション　動画制作

地域課題解決　課題を見つける　ヴィジュアルで見せる　地域を深く知る

（2）動画制作の流れ

課題発見　情報収集　企画・構成　撮影　編集　発表　　※本日は企画・構成のみ

テーマを決める　地域の共感（生活・経済活性化・社会問題）

（3）動画制作のポイント

ターゲット　メッセージ　構成　表現方法　音楽　公開・拡散方法

（4）スタッフに分かれて意見を戦わせ、スクリプトをつくる

プロデューサー・・・何を伝えたいのか

監督・・・どういう形にするか

脚本・・・ストーリー

撮影・・・ロケ地　絵

ラインプロデューサー・・・現場を仕切る

編集・・・映像をつなぐ　印象

音声・録音・・・自然の音

照明・・・光の演出

音楽・・・選曲

美術・・・小道具

（5）話し合って何かをつくる

セルフプロデュース　企業の就職試験でも

自分を売り込む　探究の授業や大学で練習

【星城大学のゼミの様子】

生徒の感想（一部抜粋）

○動画を作成するために多くの人が必要なのだと改めて思った。私のチームは7人だったため、2つ掛け持ちする人が何人かできてしまったが、うまくまとめることができた。あま市を紹介することになったが、あらすじや曲など決めることが多くあり、一つにまとめることが難しかった。

○自分たちが普段みている動画や映画はとてもたくさんの労力があって成り立っていて、今回の共同ゼミでもどのようなことをするのか、どんなことを意識して取り組めばいいのかなど、共同ゼミを通じて大変さを知ることができた。

○大学の人がやさしく教えてくれて、やりやすかった。今までは、YouTube や TikTok などの発信方法しかわからなかったけれど、映画などを利用して人を集める方法があると知った。

○何を作るか考えていた時に、大学生の方が「映画を作ってその映画にあったあま市の場所を宣伝するのも一つだよ」と教えてくれて、そういう考え方もあるのだと知った。発想力がすごくて、いろいろなことを学べた。

○あま市のことについて改めて考える機会になった。あま市には、何があってどんなことがあったのか全員で話し合い、地域について学べた。

○地域の魅力を紹介するプレゼンテーションでは、構成や撮影方法を考えるだけでも、様々な役割の人と意見交換し、一致させる必要があると知った。一つのものをつくるということは、想像以上に大変だと思った。大学や企業の採用でも、今日のような複数の人との意見交換や発表をすることがあるので、とても勉強になった。

○どういう作品だと見てもらえるか、どこで撮影したら地域の魅力が伝わるかを考えるのは大変だったけれど、楽しかった。

○ゼミを受けて、実際に映画を作るグループワークをしてみて、役割分担の大切さがわかりました。発表する内容を考えるのが、グループで協力して取り組めて、楽しかったです。

２　名古屋文理大学　フードビジネス学科　准教授　渡邉　正樹　先生
テーマ：「あま市のお土産を考えよう」

①　第一部

（1）グループに分かれて、模造紙を使用した KJ 法を実施

【模造紙の例】

課題1の内容を貼る	課題3の内容を貼る
課題2の内容を貼る	

※課題1：お気に入りお土産を10分で書き出す。みんながもらって嬉しいものを1人何個でもいいから書き出す。ネットで調べてもよい。

※課題2：1で書き出したお土産の特徴（味・包装の仕方、イメージ・ネーミングなど）を10分で書き出す。

※課題3：「ずばり、あま市と言えば、何？」 の問いに答える。思いついたこと、そのままで OK。食以外のこと（七宝焼、観光地、歴史など）でもよい。

（2）課題2について、3グループが発表。

②　第２部

（1）課題3について、2グループが発表

（2）課題4に取り組む

※課題4：「新・あま土産の商品案を考えよう！」の問いについてワークシートを使って個人で考える。制限時間は 15 分。ダジャレをつかってもよい。「あまあま〇〇」など。自分のアイデアを自由に考える。特産品にこだわりすぎなくてもよい。是非あげたい（もらいたい）ものをイメージしょう。

（3）課題4の発表（以下は生徒の発表内容の一部）

●みそのせんべい・小松菜のクッキー・七宝焼きのチョコ・あまくまのクッキーをつめこんだあま市の魅力たっぷりのお菓子

●箱を「あまくま」にしてかわいいらしくした「あまチョコ」というお菓子

●あまくまのおまんじゅう（あんこ、カスタードなど）

●あまくまのマシュマロが串刺しになったお菓子。中はストロベリー味。

●しそソフト　あま市のしそを使ったソフトクリーム。大葉味と赤しそ味とミックスを考えている。

（4）講義

●マーケティングとは何か

おいしい商品を作るだけでは商品は売れない。思うようにならない他者（消費者）といかにコミュニケーションをとるかが大切。

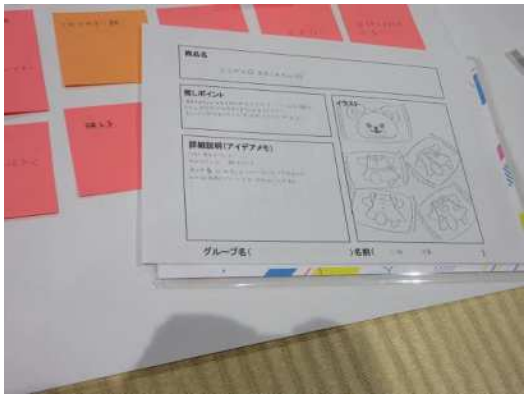
●4P: project, price, place, promotion について

4P を効率的に組み合わせた戦略が必要。適切な価格でよいものを作っても、消費者に宣伝などで知ってもらう必要がある。商品の並べやすさも大切。見本を置くのもよい。

●お土産のターゲットについて

「買う人」と「食べる人」がちがう場合もある。具体的にどういうお客さんに届けるかを考える必要がある。

【名古屋文理大学のゼミの様子】



生徒の感想（一部抜粋）

○どんな商品でも売れるわけではないとわかりました。工夫して商品が売れるようになるのもおもしろそうだなと思いました。

○お土産を作るには、製品のおいしさはもちろん、買う人や商品を並べる人のことも考えなくてはいけないということを学んだ。

○4P というのを初めて聞いて、とてもためになった。ただお土産を作るだけでも、大変なのだと感じた。

○よく耳にするマーケティングとは何かが学べたり、あま市のお土産を考えたりして、とても楽しいゼミでした。

○大学の先生がすごくよかったです。優しくて、マーケティングについて理解できたので、とても勉強になりました。

○大学の授業の雰囲気があって、おもしろかった。

○マーケティングについてたくさん学べて楽しかったです。なんとなく、ただおいしそうに見えて買っていたお土産にも、たくさんの工夫がなされているのだなと思いました。

○お土産はいろいろなことを考えないと、ヒット商品にならないとわかった。さつまーまれーどが、とてもいい名前だと思った。その地の特産物を使って商品をつくるのは難しかった。自分も何か作るときは、いろいろ考えようと思った。

○商品の開発、売り方、どんなものが売れやすいのかを学べました。自分で商品を考えてみるということが初めてだったので、貴重な体験でした。

２－４　新学科の「総合的な探究の時間」及び「学校設定教科(科目)」の年間指導計画作成

今年度の試行及び反省をもとに、令和7年度地域探究科1年生の「総合的な探究の時間」及び「学校設定科目(1年次)」は以下の通りの内容に決定した。

地域探究科　1年生　総合・学校設定科目

【学年テーマ】美を知る

【学年目標】　地域と自分の価値を見つめる。探究活動に必要な基礎知識を身に付ける。

回	月	週	地域探究科		
			地域探究Ⅰ(2時間)	総合①(2時間)	総合②(2時間)
			授業内容	授業内容	
1	4	1	オリエンテーション		
2		2	探究基礎講座		探究力測定
3		3	探究基礎講座		
4		4	探究基礎講座		
5	5	1	マナー講習		
6		2	地域行政探究		ICT活用
7		3	地域行政探究		ICT活用
8		4	地域行政探究		ICT活用
9	6	1	地域行政探究		
10		2	地域行政探究		
11		3	歴史探究		ICT活用
12		4	歴史探究		ICT活用
13	7	1	歴史探究		ICT活用
14		2	歴史探究		
15		3	歴史探究		
16		4	歴史探究		探究力測定
17	9	1	夏季休業中　星城大学・名古屋学院大学（地域政策）		
18		2	観光探究		ICT活用
19		3	観光探究		ICT活用
20		4	観光探究		ICT活用
21		5	観光探究		ICT活用
22	10	1	観光探究		ICT活用
23		2	観光探究		ICT活用
24		3	七宝焼講座		
25		4	七宝焼講座		
26	11	1	七宝焼講座		
27		2	七宝焼講座		
28		3	七宝焼講座		
29		4	七宝焼講座		探究力測定
30	12	1	福祉・防災学習		ICT活用
31		2	福祉・防災学習		ICT活用
32		3	福祉・防災学習		
33		4	福祉・防災学習		
34	1	1	冬季休業		
35		2	名古屋文理大（メディア）		ICT活用
36		3	商業探究		ICT活用
37		4	商業探究		ICT活用
38	2	1	商業探究		ICT活用
39		2	商業探究		ICT活用
40		3	商業探究		ICT活用
41		4	商業探究		ICT活用
42	3	1	商業探究		ICT活用
43		2	商業探究		ICT活用
44		3	商業探究		探究力測定
45		4	春季休業		

３ 地域と連携したフィールドワーク等の先行実施、及び「総合的な探究の時間」外の本校の取組

３－１　地域と連携したフィールドワーク

地域連携センター美和高マインドを通して、地域との連携協力の依頼を受け、以下の内容について、参加を希望する生徒が地域で活動した。ここに紹介する活動については、本校総務部が担当した。

女性活躍情報誌（連携機関：あま市人権推進課）

日時　2024年7月～10月
目的　女性が活躍していける地域づくりを目指し、高校生を含む市民記者の視点から、地域で活躍する女性を紹介する情報誌を作成する。
参加生徒　1年生3名
活動内容　7月～8月の期間に取材方法や記事の書き方等の講義を受けた後、地域で活躍する女性を取材し、9月～10月にかけて記事を作成･校正した。
※実際の紙面は巻末資料に掲載

あま市文化祭（連携機関：あま市生涯学習課）

日時　2024年11月2日･3日
目的　あま市文化祭に参加し、地域住民との交流とともに、地域の文化振興に貢献する。
参加生徒　地域活動部（運営）･ブラスバンド部（演奏）･美術部（出品）
活動内容　ブラスバンド部、美術部は文化祭での演奏および作品の展示で参加した。地域活動部は文化祭運営を補助した。

イルミネーション取り付け（連携機関：あま市商工会青年部）

日時　2024年10月
目的　毎年あま市商工会青年部が実施しているイルミネーション･フェスタの準備に参加し、地域の活性化に貢献する。
参加生徒　希望生徒20名
活動内容　青年部からの説明を受け、今年度のイルミネーションの構成を理解し、取り付け作業を実施した。

【イルミネーション取り付けの様子】

３－２　授業及び部活動での取組

①授業での取組

今年度からスタートした本校普通科3年生の学校設定科目「総合選択」では、生徒の興味関心に合わせた13の選択講座を実施している。総合選択の中で、地域に関する活動を実施した講座について紹介する。ここに紹介する活動については、本校の各教科会が担当した。

スポーツ科学（保健体育科）

6月に七宝幼稚園、7月にデイサービス「デイカフェ咲く」を訪問し、異年齢と交流するとともに、幼稚園児と高齢者それぞれの年齢に適した運動の指導の在り方、安全管理方法、運動と健康との関わりについて実地で学んだ。

【七宝幼稚園訪問の様子】

【「デイカフェ咲く」訪問の様子】

観光探究（地歴・公民科）

地域の歴史と観光スポットに焦点をあて、独自の観光ルートを作成し、発表する探究活動を実施した。本校文化祭においては、各自が調べた内容を紹介する展示スペースを設置した。

【授業の様子】

英語探究（英語科）

「地域の子供たちに楽しく英語を学んでもらうには」をテーマに、児童向けの英語フレーズを考え、それを紹介する動画を作成した。作成した動画は本校公式 YouTube チャンネルで公開中である。また、本校文化祭2日目（一般公開日）において、成果報告として小中学生が訪れる教室で動画を配信した。

【授業の様子】

【本校 HP より】

なお、総合選択については、上記の他に以下の講座を開講している。

【その他の総合選択講座】

漢文探究・実用国語・プレゼンテーション入門（国語科）
歴史研究（地歴･公民科）
解析学入門・統計学入門（数学科）
看護栄養科学・理科探究（理科）
情報探究・プログラミング入門（情報科）

【一部の授業の様子】

②部活動での取組

地域連携の一環として、部活動単位でも地域交流活動を実施した。なお、ここに紹介する活動については、本校特別活動部及び各部活動顧問が担当した。

有志部活動

取組①　**地域交流スポーツ・カルチャーフェスティバル**

日時　2024年 12 月 14 日(土)

参加部活動　サッカー部・剣道部・卓球部・テニス部・バスケットボール部・ハンドボール部・野球部・陸上部・ブラスバンド部・地域活動部

活動内容　地域交流とともに、地域の小学生が新たなスポーツ及び文化活動に触れる機会を創出するため、有志部活動にて体験ブースを設置したイベントを本校主催で開催した。

参加人数　小学生 90 名程度

【活動の様子】

取組②　**あま市ごみゼロ運動**(連携機関:あま市530運動推進連絡会)

日時　2024年 4 月 29 日(月)

参加部活動　運動部及び地域活動部 100 名程度

活動内容　あま市内の清掃活動

【活動の様子】

取組③　**クリーンコミュニケーション in 大江＆蟹江川**（連携機関：あま市かしの木会）
日時　2024年1月26日（日）
参加部活動　運動部及び地域活動部120名程度
活動内容　大江及び蟹江川周辺の清掃活動

サッカー部
取組　**地域交流活動　美和８人制サッカーフェスタ**
日時　第1回2024年9月14日・9月16日・9月23日
　　第2回2024年12月24日・12月25日・12月26日
活動内容　高校生が近隣の中学生と交流しながら、サッカーを通してルールを守ることの大切さやコミュニケーションを学ぶことを目的とし、本校主催の交流試合を実施した。
参加人数　第1回　近隣10中学校　中学生250名程度
　　第2回　近隣11中学校　中学生220名程度
【活動の様子】

取組　**地域交流活動サッカーキッズフェス**
日時　2024年10月26日（土）
活動内容　異年齢交流とサッカーの楽しさを伝えることを目的に、小学生同士のリーグ戦を高校生が主催・運営した。
参加人数　小学生（低学年）125名
【活動の様子】

茶道部・写真部

取組　**特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘への慰問**

日時　2024年８月19日(月)

活動内容　地域における異年齢交流の機会として、茶道部が特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘を訪問し、お茶会を開催した。写真部も同行し、活動の様子を記録した。

【活動の様子】※写真部撮影

地域活動部

取組　以下の表に示す内容の地域イベントで、運営ボランティア等の活動を実施した。

開催日	行事名	連携機関
５月25日	**あま遊びフェスタ２０２４**	美和文化会館
４月27日	**あしなが学生募金　募金活動**	あしなが学生募金
５月18日	**わんぱく相撲**	海部津島青年会議所
８月11日	**JCデー謎解きアドベンチャー**	海部津島青年会議所
10月５日	**スカイランタンフェス　スカイランタン準備**	あま市観光協会
10月12日	**第８回あまのわ**	あま市市民活動センター
11月2日･3日	**あま市文化祭**	あま市文化協会
12月15日	**クリスマスコンサート in イルミネーション 2024**	NPO法人　ほっとネット･みわ
２月２日	**あま市国際交流DAY**	あま市市民活動センター
２月８日	**親子ふれあいデー**	あま市生涯学習課

【活動の様子】

ブラスバンド部

取組①　**「あまのわ」　ステージ演奏**

日時　2024年10月12日(土)

活動内容　市民活動センター主催の市民活動祭において、ステージで演奏を行った。

取組②　**あま市文化祭　ステージ演奏**

日時　2024年11月2日(土)

活動内容　あま市文化協会主催のあま市文化祭において、ステージで演奏を行った。

【活動の様子】

生徒会

取組　**どんぐり拾い**

日時　2024年11月5日(火)

活動内容　異年齢交流のため、本校内にあるどんぐりの木の周辺環境を整え、小学生が安全にどんぐり拾いをする場を提供した。生徒会が主体となって、お土産として配布するキーホルダーを作成し、どんぐり拾い当日は小学生と交流した。また、校内に残ったどんぐりを回収し、工作等の材料として、希望する近隣の小学校へ配布した。

　どんぐり拾いを実施した小学校からは、返礼として、児童がどんぐりを使って作成した作品を本校に進呈いただいた。

【活動の様子】

【小学生の作品】

４　大学との連携

今年度の計画

本校と高大接続連携協定を結んでいる名古屋文理大学、星城大学に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等と連携し、大学訪問やゼミ体験を実施する。大学での学びに触れ、生徒の高度な学びを促進し、地域政策への興味及び進学意欲を高める。

４－１　星城大学訪問

日時　2024 年 8 月 1 日(木) 11:00～15:00

目的　「総合的な探究の時間」の創出の参考とするため。また、星城大学での学びを実際に体験することで、参加生徒の大学での学びに対する興味関心を高めるため。

参加者　地域活動部生徒 41 名

内容　午前：今年度3月に星城大学を卒業した名古屋市港区役所職員による講演。大学でのまちづくり・観光ゼミにおける学びと、現地に足を運ぶこと（フィールドワーク）の重要性、及び、それらが現在の仕事にどのように生きているか、を講演を通して学んだ。

午後：琵琶湖の biwaken や千葉県のチーバくんなど、地形から着想を得たご当地人気キャラクター紹介の後、美和高校が所在するあま市の地形からどのようなキャラクターが考えられるかを大学生との合同グループで検討するワークショップを実施。また、「考案したキャラクター出演のあま市紹介ムービーを作る」と想定した際の、動画のストーリーを考える活動も実施した。また、それらがどのようにビジネスにつながるかも考慮に入れて検討し、発表した。

午前　講座受講中の様子

午後　ワークショップの様子

午後　グループ発表の様子

生徒感想（一部抜粋）

・大学生とのグループワークを通し、人と交流することの大切さに気付いた。
・大学生とコミュニケーションをとる機会があり、とても貴重な体験だった。
・大学の地域社会学のゼミはどのようなものか、地域社会学がどのような職業につながるのかを知ることができた。
・大学生の発表がとても上手で、自分もあのように発表できるようになりたいと思った。目標ができた。
・今も授業や部活動で地域探究をしているが、大学での地域探究のやり方や、地域探究を通して学んだことをどうやって仕事に活かしていくかなどがわかり、自分の進路の選択肢を増やすことができたように感じる。
・もっと地域に貢献していきたいと思った。

４－２　名古屋文理大学訪問

日時　2024 年 8 月 1 日(木) 9:30～13:00

目的　地域政策に関係する大学での学びに触れるとともに、名古屋文理大学で提供される学びの内容を知ることで、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者　1･2年生公募生徒 28 名

内容

①情報メディア学科ミニ体験

・撮影スタジオ、レコーディングスタジオ

・学生プロジェクト紹介

②フードビジネス学科ミニ体験

・フードスタジオ、フードコーディネートのためのアトリエ、カフェ実習室

・フードビジネス学科の学生によるトークショー

③健康栄養学科ミニ体験

・健康栄養学科の学生による実習実験等の施設案内と授業説明

④大学のゼミ体験～地域政策編～

・地域政策ゼミの体験グループワーク

・情報収集･分析方法の種類と、グループインタビューによる情報収集の体験

・ブレーンストーミングとグループ化による情報分析の体験

・地域を活性化するご当地グルメを考案するグループワーク体験

当日の様子　①情報メディア学科ミニ体験の様子

②フードビジネス学科ミニ体験の様子

③健康栄養学科ミニ体験の様子

④大学のゼミ体験の様子

生徒感想（一部抜粋）

・大学では自分で考えて自主的に行動することが大切だと感じた。
・専門的なことを詳しく教えていただいて、大学がどのようなところか知ることができた。
・60 分間のゼミ体験が楽しくできたし、とても良い経験になった。大学での学びについてもっと知りたくなったので、積極的に自分で調べようと思う。
・メディア科の体験で天気予報番組の制作の仕組みなどがわかった。普段できない体験ができてうれしかった。
・学科ごとのそれぞれの魅力や大学の雰囲気がわかった。訪問できてよかった。
・ゼミ体験で地元のグルメを考えたり、友達と話し合ったりする機会があって楽しかった。
・今回の大学訪問で「管理栄養士」に興味が湧いたので、詳しく調べたいと思った。
・大学がいろいろな企業と繋がって活動していることを知り、興味が湧いた。自分も大学で学びたいと思った。

４－３　愛知県立大学訪問

日時　2024年８月28日(水) 10:00～13:30

目的　地域社会に関係する大学での学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者　1･2年生公募生徒 32名

内容　愛知県立大学職員による大学説明。教育福祉学部の模擬授業。その後、施設見学。

当日の様子

生徒感想（一部抜粋）

・とても自由な雰囲気で、自分たちで大学祭を企画していて、学生たちが楽しそうだった。自分もこの大学に入りたいと思った。
・自分に合う学部学科をもっと知ろうと思った。
・楽しかったです。説明も丁寧でわかりやすいので、すべて印象に残りました。
・大学に行って「大学はこういうところ」ということが明確になり、大学に行きたい気持ちが強くなった。今後は行きたい大学、行きたい学部を決めて、それに向けて勉強していきたい。
・教育学部の模擬授業を通して、教育分野への興味関心が高まった。講師の話を聞いて、新たな教育に対しての考え方が見つかったり、高校よりも高度な専門知識が得られたりする内容だった。
・入試についての話を聞くことができた。進路について考える時に有効活用していきたい。

４－４　名古屋工業大学訪問

日時　2024年８月30日(金) 10:00～12:00

目的　理系の大学における地域社会に関係する学び(都市開発)に触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者　2･3年生公募生徒23名

内容　台風のため、短縮日程で実施。名古屋工業大学の職員による施設の説明と施設見学。

当日の様子

生徒感想（一部抜粋）

・工学部と理学部の違いについて、よくわかった。
・工学と、今の勉強とのつながりがより明確なものとなりました。
・名工大はさまざまな分野に積極的で、学生の楽しそうな雰囲気がスライドや動画などでも伝わってきて、すごくいい大学だと感じました。もし進学するなら、名工大のような大学に進学したいと思うことができました。
・工業大学にちなんだサークルがいろいろあって、すごいと思った。
・大学院に進学する学生が、他と比べて、桁違いで驚いた。分かってはいたが、やはり理系科目が大事なので、理系科目を中心に勉強したい。
・名古屋工業大学で、どんなことを学ぶのか知ることができた。
・とにかく広くて、建物がすべて大きい。ここにいるだけで、すごくワクワクする。
・大学では、理学・工学について学んだ。大学では、高校で学んだことをさらに深掘りし、それを社会に役立てることが目的だと知った。社会のために、というのは大変だと思うが、頑張ろうと思った。

４－５　岐阜大学訪問

日時　2024年10月4日(金) 12:50～15:30

目的　地域科学部をもつ大学において、地域に関係する学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者　1･2年生公募生徒19名

内容　午前:岐阜大学の学食体験。学内自由散策。
午後:大学職員による大学全体概要説明および、各学部の説明と見学。岐阜大学地域科学部助教　大澤圭吾先生による学部の概要説明。准教授　柴田和宏先生による体験講座「近･現代思想論」を受講。その後岐阜大学学生との懇談。

当日の様子

生徒感想（一部抜粋）

・学生の話を直接聞くことができて参考になった。またこのような機会があれば参加したい。
・大学への通学時間や普段の講義の様子を見られたので、とてもよい経験になった。
・地域科学部の学生の話を聞いて、岐阜大の地域科学部の雰囲気を知ることができた。この学部に入れば、自分でコントロールできる時間が多いことも知った。少し遠いが、入学したいという気持ちになった。
・少人数で授業が行われるので、わかりやすく、先生との関係を深められることがとても魅力的だと思った。

４－６　愛知大学訪問

日時　2024年12月3日(火) 13:30～16:00

目的　地域社会に関係する大学での学びに触れるとともに、生徒の進学意欲向上を図る。

参加者　1･2年生公募生徒28名

内容　地域政策学部の模擬授業受講。その後、キャンパス見学と、大学職員による大学説明。

当日の様子

生徒感想（一部抜粋）

・愛大ではサークルなどがたくさんあり、私もいろいろなことに挑戦してみたいと思った。
・進路を広げるために、いろいろな教科を勉強することが大切だと思った。
・学部のことをより知りたいと思った。
・大学では、自分の興味のあることを深く学ぶことができるので、やりたいことを見つけたいと思いました。体験授業で、１つの視点で見るのではなく、多角的に見ることの重要さを知りました。
・愛知大学を私学の第一志望として考えたい。まだ将来について決めた訳ではないが、多くの学部学科を調べ、行きたい大学に進学できるようにしたい。

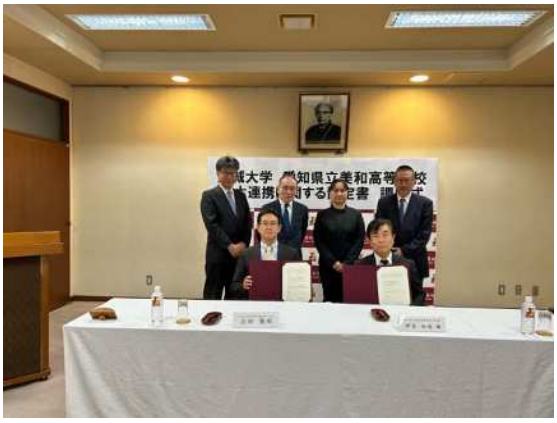
４－７　大学との高大接続連携

本校は、生徒への高度な学びの提供を目指し、令和2年 11 月から名古屋文理大学と高大接続連携協定を結んでいる。

今年度、地域探究科設置に先立ち、現代社会学及び地域政策の分野に深い知見をもつ名古屋学院大学、星城大学の2大学と、新たに高大接続連携協定を締結した。今後は連携する大学の力を借りながら、より深い探究学習ができるよう授業を設計していく。

【名古屋学院大学　調印式】　令和６年 12 月４日(水)

【星城大学　調印式】　令和７年1月 30 日(木)



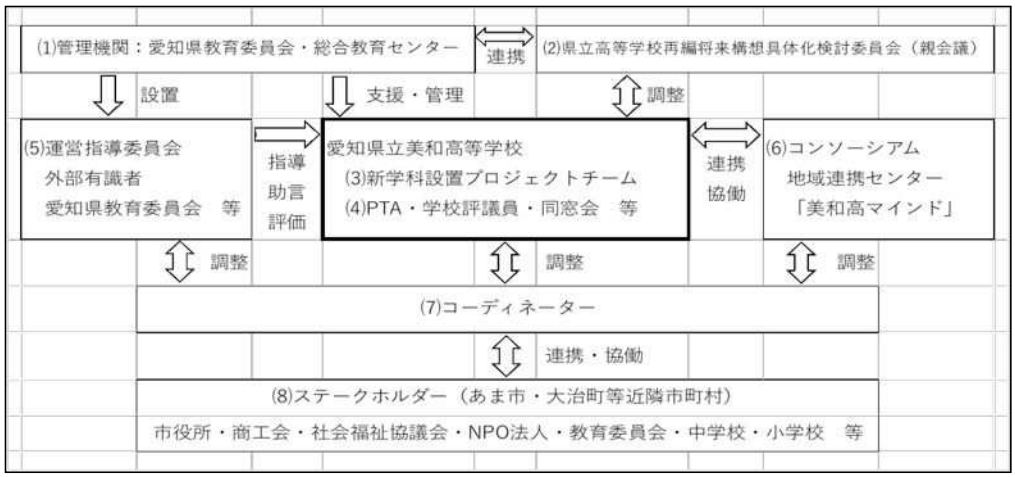
第３章　管理機関の役割

１　管理機関の取組

１－１　管理機関の役割と実施計画

管理機関における実施体制や事業の管理方法

【事業実施体制】　下図のとおり実施体制を構築する。



【事業管理方法】次の方法により事業を管理する。

⑴　管理機関

愛知県教育委員会及び総合教育センターを管理機関とする。

⑵　県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会（親会議）

中高一貫教育具体化検討部会や実務者レベルのワーキンググループ等により、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を検討する。

⑶　新学科設置プロジェクトチーム

愛知県立美和高等学校に本プロジェクトチームを設置し、「地域探究科」への改編の実施主体とする。

⑷　PTA・学校評議員・同窓会

「地域探究科」への改編に向け、既存の PTA、学校評議員及び同窓会からの意見を、特色・魅力あるカリキュラム及び教育方法の開発に取り入れる。

⑸　運営指導委員会

外部有識者及び愛知県教育委員会等を構成員とする。年に2回開催し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。

⑹　コンソーシアム（地域連携センター「美和高マインド」）

令和3年に愛知県立美和高等学校が設置した地域連携センター「美和高マインド」をコンソーシアムの母体とする。年に3回の定例会議を開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。

⑺　コーディネーター

コーディネーターは全体を掌握し、必要に応じて調整を行い、学校と地域のステークホルダーによる連携・協働した教育活動の継続に努める。

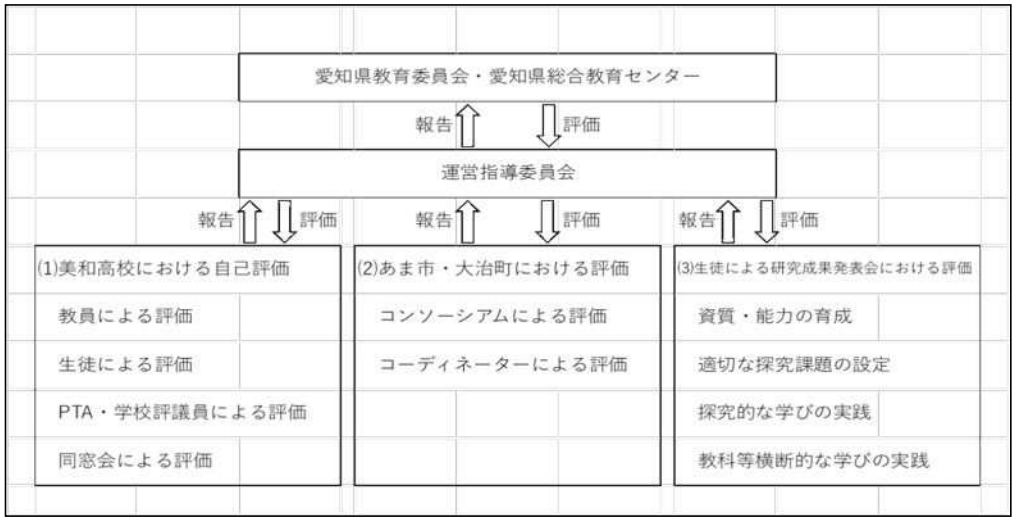
⑻　ステークホルダー

地域連携センター「美和高マインド」構成員が所属する、あま市及び大治町等近隣市町村の関係機関等をステークホルダーとする。

管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

【事業全体の成果検証及び評価のための体制】

下図のとおり事業全体の成果検証及び評価のための体制を構築する。



【事業全体の成果検証及び評価の考え方】

次の方策において、定量的・定性的調査を行うことで、事業全体の成果検証、評価を行う。

⑴　美和高校における自己評価

美和高校において、教員、生徒、PTA、学校評議員及び同窓会を対象としたアンケートによる評価等を基に、本事業の取組について自己評価をまとめる。

運営指導委員会において、美和高校の自己評価の妥当性について検証する。

⑵　あま市・大治町における評価

コンソーシアム構成員及びコーディネーターを対象に、生徒の資質・能力の伸長についてのアンケート評価等を実施することで、あま市及び大治町からの評価とする。

運営指導委員会において、あま市・大治町における評価の妥当性について検証する。

⑶　生徒による研究成果発表会における評価

年1回開催する生徒による研究成果発表会について、生徒、教員、コンソーシアム構成員、コーディネーター、地域住民及び愛知県教育委員会等が参加し、生徒の学びの深まりについて、次のような観点で評価する。評価結果等については、ウェブページに掲載する。

・生徒の研究が、資質・能力の育成に資する内容になっているか
・生徒の探究課題の設定が適切な内容になっているか
・生徒による探究的な学びが実践されているか
・生徒による教科等横断的な学びが実践されているか

⑷　管理機関における事業全体の成果検証及び評価

⑴、⑵及び⑶の3つの方策を踏まえた運営指導委員会からの検証報告を受け、事業全体の成果検証、評価を行い、他校での取組や事業を踏まえ、改善の指針を学校に示す。

１－２　管理機関による活動実績

【成果】

(1) 実施内容および日程

実施内容	日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会		○								○		
コンソーシアム会議		○					○			○		
学校訪問指導(中高一貫教育ワーキンググループ・発表会・打合せ)	○	○					○			○		○
研修・指定校発表会等	指定された日時											
高校との事業進捗確認	随時											

地域探究科設置に向けて、愛知県教育委員会が進捗管理しながら進めた。

美和高校は、あま市・大治町の中学校との中高一貫連携教育を進めていることから、導入のための検討部会やワーキンググループを開催し、市町の教育委員会や中学校教員からの意見も取り入れながら、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を一体的に検討してきた。今年度から地元中学生と対話型の探究活動をはじめており、成果と課題を整理し、来年度の地域探究科での活動につなげていく予定である。

学校内においては、地域探究科設置プロジェクトチーム（探究推進部）の教員が業務の中心を担い、教育委員会と連携しながらカリキュラムや教育内容を検討した。PTA・学校評議員・同窓会からも丁寧に意見を聞き取り、学科の改編が学校にとって望ましいものとなるように、保護者・地域・同窓生の思いを大切にした準備を進めている。

専門的な知見から学科の在り方を評価するため、外部有識者及び愛知県教育委員会等を構成員とする運営指導委員会を5月・1月に開催した。5月の運営指導委員会では、生徒の活動と地域探究科の目標の整合性について、さらに学術的な観点と地域のニーズの両方に対応したカリキュラム開発の進捗具合について指導と助言を行った。また、1月の運営指導委員会では、主に学校設定教科と総合的な探究の時間の評価基準（ルーブリック）についての指導と助言を行った。

さらに、地域との協働体制を構築するため、令和3年度に美和高校が設置した地域連携センター「美和高マインド」をコンソーシアム化し、5月・10月・1月に定例会議を開催して連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行った。

コーディネーターの近藤氏には、地域との連携・協働による教育活動を継続し、更に発展させるために高校と各連携機関との調整役として尽力していただいた。加えて、文部科学省主催の高校コーディネーター研修での学びを学校現場に還元することで、教員の探究活動に対する意欲向上につなげている。

管理機関名：愛知県教育委員会

令和５年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【愛知県立美和高等学校】地域探究科（令和７年度設置（予定））

地域と自分の美しさを知り　人と人の和の力で　未来を拓く生徒を育む

“美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically”
～地域とともに未来を革新する人材を育てる～

【地域探究科設置の目的及び特色・魅力ある教育の概要】

地域と協働し、生徒を軸とした地域活性化に取り組むとともに、生徒の**物事を肯定するカ**と**不安定な時代を生き抜くカ**を育み、**地域の未来の担い手**を育成するカリキュラムを編成すること。

七宝焼のように ７つの輝く資質・能力の育成します

課題発見力　情報活用力　問題解決力　対話力　実践力　思いやり　豊かな人間性

美を知る１年生 → 和をつくる２年生 → 未来を拓く３年生

総合的な探究の時間（12単位）*探究活動*　**学校設定科目**（6単位）*フィールドワーク*

教科等横断的な学び　*教科を横断した探究活動の基礎となる知識*

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

令和６年度
年３回の**コンソーシアム会議**
年２回の**運営指導委員会**

【令和６年度の目標】

出前講座・フィールドワーク等の先行実施
- 地域住民の出前講座の先行実施
- フィールドワークの先行実施
- 改善点の記録と連携機関との共有

大学の講座の先行実施
- 連携大学のオンライン講座等を先行実施
- ネットワーク環境の確認
- 生徒の理解度及び改善点の確認

名古屋文理大学

星城大学

総合的な探究の時間の深化
- 小中学校向けの高校生出前講座
- 実践に向けたベースの完成
- 評価方法の検討

【取組状況】

職業人講話・観光探究・防災学習を実施
- 商工会講師による職業人講話の実施
- 観光協会訪問と情報発信の実施
- 観光探究（観光協会10周年記念事業）実施
- 地域住民による防災講話を含む防災学習の実施

高大接続連携協定締結
- 名古屋文理大学との連携強化
- 星城大学と新規の連携協定締結
- 名古屋学院大学との新規の連携協定締結

大学訪問・共同ゼミの共同実施
- ６大学への大学訪問の実施
- 校内での地域探究ゼミの共同実施

中学校訪問・幼稚園及び小学校との連携学習
- 地域探究発表会の実施
- 地域と協働したフィールドワークの実施
- 地元小中学校との連携協議の実施

【成果と課題】

七宝焼講演会

地域住民との打合せ

観光協会10周年記念事業

地域イベントでの成果発表

成果

例年実施している商工会講師による「職業人講話」に加え、**「七宝焼講座」「観光講座」「防災学習」**を実施するなど、これまでなかった分野において地域住民による講座のベースをつくることができた。また、名古屋文理大学に加え、星城大学・名古屋学院大学とも**高大接続連携協定**を締結した。２年生との共同ゼミを実施するなど、大学との連携も強化し、高度な学びへつなげる環境が整いつつある。

地元中学校との連携もスタートし、１年生全員が**地域の中学校を訪問**した。選択授業や部活動でも地域住民との連携や幼稚園・小学校・介護施設等への訪問を実施するなど、着実に地域で探究活動を行うための基盤ができている。

地域との交流の中で、**人前で臆することなく自分の考えを発信できる生徒**が増え、自信を持たせることができている。

課題

今年度の試行をもとに、来年度のカリキュラムを編成している。学期ごとの単元や教材を作成しているが、来年度新学科では学校設定科目と総合的な探究の時間を合わせて「探究」の時間が**５時間増加**することから、カリキュラムの進捗が想定とずれる場面が出てくることも予想される。予定外の状況に対して適宜修正を加えていくことが今後の課題である。

巻末　参考資料

あま市広報関係

【あま市観光協会　公式 Instagram】

【あまのわ　チラシ】

【あま市文化祭　チラシ①】

【あま市文化祭　チラシ②】

【親子ふれあいデー　チラシ】

【女性活躍情報誌】

男女共同参画と女性活躍のまちづくりをすすめています！
あま市男女共同参画プラン
「いろいろな私でいいあなたでいいみんなが笑顔で活きるまち」を目標像に「第2次あま市男女共同参画プラン」を策定しました。この計画に基づき、あま市では様々な取組を実行しています。女性も男性も性別に関わりなく、個性と能力を発揮できる多様性に富んだまちを実現しましょう！
↑男女共同参画週間
啓発イベント
家事等実践講座
「男性とお父さんのスパイスカレー講座」など、性別役割分担意識を解消して生活で役立てられる講座を開いています。
女性に対する暴力をなくす運動
運動の一環として、パネル展示とパープル・ライトアップを実施しています。
↑家事等実践講座
↑パープル・ライトアップ
女性のつながりサポート事業
コロナ禍以降、孤独になりがちな女性や悩みを抱える女の子を地域で支える取組です。つながり LINE［個別相談窓口、オープンチャット］があります。カフェでくつろぐような気分でお話してみませんか？
高校生と大人たち、あま市で暮らす市民記者が取材しました！
今年で8回目となる女性活躍情報誌の取材をして記事を書いたのは8人の市民記者のみなさん。五条高校、美和高校に通う高校生とあま市在住在勤の大人たちが参画してくださいました。市民のみなさんが素敵だと感じた等身大の声でつくられた情報誌です。
各チームの取材の様子
この情報誌へのご意見・ご感想をぜひお寄せください（上の二次元コードから）
あま市女性活躍情報誌
@MyLife vol.8
全ての親子が笑顔になる世界へ
和やかな環境づくりを志して
生活に光を灯すために
苦しいを楽しいへ
伊藤 麻衣さん
下野 和香さん
市民記者のヒトコト
全ての女性に希望を与える素敵なお話でした！
伊藤さん、下野さんの元気のワンポイント
思わず楽しくなる100万点の笑顔！

支援を超えたコミュニケーション
林 香穂さん
学習支援が居場所になるために
挑戦の後押し
先生として目指すもの
市民記者のヒトコト
緩やかでとても話しやすい先輩でした。五条高校の話で盛り上がりました！
林さんの元気のワンポイント
子どもの成長！！
ただ人を幸せにしたくて
大宮 祥子さん
原動力は笑顔
チャンスを逃さないで
音楽で幸せの種まきを
市民記者のヒトコト
生演奏を聴いて泣きそうになりました。
大宮さんの元気のワンポイント
みんなの笑顔！

美和高校　地域探究科広報（本校発行）

【地域探究科　チラシ　表面】

【地域探究科　チラシ　裏面】

令和7年度

美和高校 地域探究科 開設

Q&A　地域探究科について

Q1 美和高校の「普通科」と「地域探究科」の違いは何ですか？

「地域探究科」には**毎週6時間の「探究」の時間**があります。「探究」は自分で問いを立て、見つけた課題に対して情報を整理・分析し、周りの人たちと協力しながら課題の解決に向かう姿勢を身につける学習活動です。地域探究科では、「地域」を素材として探究を行うため、普通科と比べると**学校の外に出て活動する時間**がたくさん設定されています。

Q2 「地域探究科」はどんな人が向いていますか？

地域探究科は「探究」活動とともに、グループワークやフィールドワーク、外部の方や年齢の違う人との関わりがとても多くなります。探究活動の特性から、**「なぜ？」を突き詰めるのが好きな人、人との交流が好きな人、実物を自分の目で見るのが好きな人**に向いています。

★中学校の「総合的な学習の時間」や文化祭の企画・運営が楽しかった！という人は、地域探究科に向いているかも....

Q3 探究の時間が週6時間ありますが、「普通科」と比べて他の授業はどうなりますか？

高校で必要な学習や将来の進路に向けて**必要な授業時間は確保しています**。また、将来の目標にあわせて、３年次には選択科目や「自己課題探究」が用意されています。

Q4 「普通科」と「地域探究科」は併願できますか？

「地域探究科」は独立した学科ですので、「普通科」との**併願はできません**。美和高校を志望する場合は、「普通科」か「地域探究科」のどちらかを選択して受検してください。

なお、「普通科」「地域探究科」それぞれ別に、**推薦選抜・特色選抜・一般選抜**を実施します。

Q5 「地域探究科」の進路はどうなりますか？

「普通科」と同様、**大学や専門学校への進学を中心**に、就職も含め、**各自の目標に合わせた進路実現**を目指します。大学受験においては、「探究」で身につけた力を活かし、一般選抜入試はもとより、面接や小論文を重視する「総合型選抜入試」にも挑戦していきます。

「地域探究科」は**"地域を素材として探究を行う"**学科であり、地域に就職するという意味ではありません。探究を行う中でそれぞれの生徒が抱いたあらゆる興味・関心をもとに進路を決定していきます。

愛知県立美和高等学校

〒490-1295　愛知県あま市篠田五ツ藤１番地
TEL　052-443-1700　　FAX　052-442-3917
URL　https://miwa-h.aichi-c.ed.jp

美和高校マスコットキャラクター

み～くん(後ろ姿)

美和高校webサイト

【地域探究科　進路関係チラシ】

【地域探究科　学科紹介動画　視聴用 QR コード】 ※YouTube へ移動します

地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

美和高（みわこう） Makes（マ） Innovators（イ） with Neighbors（ン） Dramatically（ド）

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

発行日　令和７年３月
発行者　愛知県立美和高等学校
〒490-1295　愛知県あま市篠田五ツ藤１番地
電話 052-443-1700　FAX 052-442-3917

美和高校マスコットキャラクター

み～くん